

Book Review



日本歯科医療への提言

赤司征大 著



Reviewer

築山鉄平 Teppei Tsukiyama

(福岡県・つきやま歯科医院専門医療クリニック天神)

A5判, 2色
102頁
定価(本体 3,400円+税)
医歯薬出版刊



著者の赤司氏や評者の世代は「ジェネレーションX世代」と呼ばれ、アナログからデジタルへの変換世代に位置している。従来のアナログ教育の生身感と、デジタル教育のクールさを経験した世代であるため、その前後世代のブリッジ役として機能する役割を担っている。

その複雑な役割が求められるなかで、赤司氏は絶妙なバランスの持ち主であるといえる。先人たちの実績から、デジタルネイティブのミレニアル世代にどうバトンを渡していくのか。そしてそれを取り巻く日本の社会情勢を多角的に観察し、実在の確かな角度から考察している。

その原点は、彼自身が経験した多様な教育背景があるように感じられる。学生のときに中小企業診断士というビジネスコンサルタントの資格を保有し、歯科医師免許を取得すると、臨床を行いつつも医療法人の経営幹部としての実績を積み、さらに大局的な視点

を鍛錬するためにアメリカへ渡り経営大学院を卒業し、日本帰国後は歯科界ではまだまだ少ないIT起業家として歯科を通じて日本の社会制度改革へ一石を投げようと日夜奮闘しており、彼に対する周囲の期待は高まっている。

本書ではその期待に反することなく、日本歯科医療の社会的価値の向上を前提に過去から未来への歯科医療のストーリーが立体的に語られており、それに客観的事実が添えられているためリアルで網羅感がある。

冒頭に現在の日本の置かれている経済状況、人口動態、社会保障費の動向などのファクトを中心とした前提の共有に紙面が割かれている。それを元に日本政府が捉えるこれからの歯科医療像を一つひとつ解説、考察を重ね、医療のなかの歯科医療がどうあるべきか、超高齢社会で歯科医療がどうあるべきか、さらにはIoTをはじめとするテクノロジーと歯科医療の融合による新たな潮流、キュアからケアへの対

応、新しい社会における歯科医療ビジネスモデルの変化、日本歯科医師会と日本歯科医師連盟への期待が語られている。

また、赤司氏と同じように「歯科×Xの可能性」という複視座をもつ日本のトップランナーを迎えての対談は実に興味深く、それぞれの立場は違えども多くの未来への共通メッセージが含まれている。

赤司氏の文章の一つひとつに歯科医療に対する誇りが感じられ、若い世代のみならず、歯科医療に携わるすべての世代、すべての団体に向けてのメッセージに情熱が込められていて、歯科界の新しいリーダーの誕生を予感させるには十分すぎる内容である。本書は今の時点でこれからの未来を示唆・予見する内容ではあるが、その未来を迎えたときには改めてその先見性に触れ、多くの注目を集めていくであろう。世代を超えて、時代を超えて読み継がれる名著となることは間違いない。